

2017.3 No. 36



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

## News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### 臨床研究センターの活動紹介



臨床研究センター  
副センター長 川口 淳

佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターは、平成11年10月に治験センターとして設置され、平成27年6月からは治験のみならず臨床研究の支援体制を整備し組織を拡大しています。

私たちは、大学における治療・検査方法の改善や病因の理解などを目的とした「臨床研究」の支援を行っています。臨床研究は患者さんを対象にした研究であり下図のような手順で行われます。①患者さんに研究の説明をしたうえで参加の同意をいただき、②研究に使用する情報を測定しデータとして管理します。③そのデータを統計解析し結果を報告します。それは医療に



### 食育指導センターの始動

平成17年に食育基本法が制定され、「食べる力」＝「生きる力」として、健全な心身を培い、豊かな人間性をほぐくむための「食育」の推進がうたわれています。これを踏まえ佐賀大学医学部附属病院においても、これまでの栄養管理という観点から食育という観点への変革を目指して、平成29年1月から栄養管理部門を「食育指導センター」と名称変更し、新たな組織としてその名にふさわしい方向へと向かって行くこととなりました。



▲図1 盛り付けの様子

一方で、平成27年10月から導入されたニュークックチル方式の給食提供は、多くの困難を乗り越え、ようやく軌道に乗ったという段階です。この方式は加熱調理した料理を、急速冷却した状態で食器に盛り付け配膳トレーに載せてカートに保存(図1、2)し、



▲図2 ミールシャトル

食事時間に合わせて再加熱して提供するというシステムで、美味しく安全な食事の提供を実現できるシステムです。しかも本院で採用している再加熱カート「ミールシャトル」はマイク口波による加熱が行われるため食材の劣化や変色が少ないだけでなく、トレー内での加熱、非加熱食材共存が可能(図3・金色の花模様の箇所に置かれたもののみが加熱される)、非加熱食材も同時に配膳することができます。



▲図3 配膳トレー

食育指導センター長

池田 裕次



### 多数傷病者発生を想定した災害訓練の実施について



災害拠点病院である佐賀大学医学部附属病院は、万一の災害で多数の傷病者が発生した際にその責任を十分に果たすべく、4年前から机上訓練と実動訓練を毎年1回ずつ行ってきました。机上訓練を本学教職員中心に8・9月頃に行い、これを受けて10・11月頃に本学教職員に加えて模擬患者として本学の学生や研修医、さらには佐賀広域消防局の方々など、多くの参加者のご協力をいただいて実施してきました。

第5回目の今回の実動訓練は平成28年11月19日に行いました。同年4月に発生した熊本地震の記憶も新しく、参加者は例年以上に実感を持って臨んでいたように感じました。想定は「休日の午前9時ごろに地震が発生し、本院も被災し電子カルテが使用できない状況で、列車脱線事故によって生じた多数傷病者に対応する」というもの



災害対策室長  
倉富勇一郎

### 就任挨拶



歯科口腔外科学講座  
教授 山下 佳雄

平成28年12月1日付けで佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座の教授を拝命しました山下佳雄です。歯科口腔外科は、口腔の良悪性腫瘍、顎顔面外傷、口唇裂口蓋裂を代表とする先天奇形、顎変形症といった疾患の治療に携わっています。これらの疾患は機能や審美性が損なわれることが多いため顎骨再建、顎顔面インプラント、顎顔面補綴治療を駆使して、患者さんのQOL向上に努めております。一方で近年、口腔環境が全身疾患に広く影響を及ぼすことが周知されるようになりました。口腔管理(口腔ケア)の重要性が注目されており、われわれ歯科医師もその一躍を担っております。医科歯科連携の必要性は浸透しつつありますが、まだ十分な連携が整っていないことも事実です。今後さらに連携体制を整備強化する必要があります。院内の診療科はもろろん地域の医療機関と連携を図りながら、質の高い口腔医療を提供できればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床研究センターの活動紹介

食育指導センターの始動

池田 裕次

多数傷病者発生を想定した災害訓練の実施について

倉富勇一郎 就任挨拶

# 診療科紹介 膠原病・リウマチ内科

当科は全身性エリテマトーデス（SLE）や強皮症、血管炎など全身性の膠原病疾患と関節リウマチ（RA）をはじめとする関節疾患を主な対象とする診療科で、日本リウマチ学会認定のリウマチ専門医5名が在籍しています。

入院患者ではSLEが最も多い疾患で、次いで顕微鏡的多発血管炎などの血管炎症候群になります。膠原病の治療薬は近年有効性の高い新しい免疫抑制剤や抗体製剤が次々に導入されており、そのような薬剤を併用してできるだけステロイド剤を少なく使う治療が主体になってきています。当科でも積極的に新規治療を取り入れ、より短時間で活動性を抑制し副作用を軽減できる治療を目指して診療を行っています。膠原病患者は不明熱や関節症状などにより紹介されますが、現在不明熱の原因疾患としては膠原病などの非感染性炎症性疾患が最大の疾患群となっています。

外来患者ではRAが最大の疾患で（約600名）、SLEがそれに続きます（約200名）。RAの診断治療も近年進歩が目覚ましい分野です。診断では簡便さ、機動性、高い診断能を併せ持つ関節エコーが頻用されるようになり、当科でも全員

診療科長

多田 芳史



が技術を習得し日常診療に生かしています。治療では生物学的製剤治療が浸透し、投与患者数は年々増加しています（現在約180名）。難治性のRAや早期RA、また、疑い症例など多くのご紹介をいただいています。治療においては有効性とともな安全性の確保や合併症のコントロールも重要であり、整形外科を始め多くの診療科と連携しながら診療にあたっています。

また、膠原病・リウマチ性疾患の病因解明や治療の有効性の検証、長期予後などに関する臨床研究も他大と共同で行っており、地域の専門施設として臨床とともに研究の面でも重責を担えるよう今後も努力していく所存です。



▲膠原病・リウマチ内科のスタッフ

## 平成28年度 文化コーナー

たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品を紹介いたします。また、病院ホームページや外来ロビーに全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

文化コーナー担当 南里 悠介



- 俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下みね子・万沙羅（選）
- 補聴器で つながる会話 秋海棠
- 振割を 抜ける風音 冬隣
- 快方に 向かひし君や 冬蕃薇
- 川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）
- 病室に 髪止め残し 孫帰る
- 両手添え やさしく進む 車椅子
- 恵方より 長男の嫁 やつて来い
- 護身には はつきり名乗るに 誤診なし



▲院内学級の児童生徒による作品

## イベント紹介



この冬本院で行いましたイベントをお知らせいたします。このほかにも本院ではさまざまなイベントを行っています。ぜひお楽しみください。



▲クリスマスコンサートの開催



▲門松の設置



▲クリスマスイルミネーションの点灯

## 連携病院紹介

### 医療法人春陽会

#### 【病院紹介】

佐賀大学医学部附属病院が旧佐賀市の北西部に立地しているのに対し、上村病院は旧佐賀市の北東部に位置し、市民の皆様が安心して日常生活を過ごしていただくために、急性期から慢性期まで、地域に根付いた医療サービスを提供しています。

病棟の診療科は内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科・眼科を標榜し、病棟4棟で病床数は、一般病床60床、障害者病床46床、医療療養病床46床、介護療養病床46床の計198床です。

併設施設として、介護老人保健施設みどりの園、特別養護老人ホーム春庵、グループホームうらむら（2ユニット）、地域密着型介護施設（小規模多機能事業所、認知症対応型通所介護）を有し、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援事業所などの在宅サービスも提供しています。

#### 【本院との連携の状況】

外来に紹介いただく患者数は、毎年100件前後（全体の25%前後）の紹介をいただいております。循環器、糖尿病、神経難病、消化器疾患（がん患者含む）、眼科疾患等が主です。当院からも年間100件超の患者の精査、確定診断で相談、外来紹介させていただいております。貴院で急性期加療された患者さんの転院継続加療も年30件

## 上村病院

理事長・病院長 上村 春甫

前後の紹介をいただき退院までの支援をさせていただいております。また、当院の救急患者、手術等の高度医療治療の際、快く転院の上、ご加療いただいております。

当院には、大学病院多診療科医局から、医師の派遣をいただいております。外来・入院診療、専門領域への助言・診断・加療をいただき、当院で行う医療行為への患者さんからの信頼・安心感、満足度が上がっていること言うまでもありません。また、院内感染対策についても横断的な地域連携体制をとらせていただき、感染症対策強化を得ることができました。

最後に、大学病院と当院において、急性期治療後の重度後遺障害者、神経難病患者の転入院連携強化、心大血管・循環器疾患治療後の治療連携も循環器科医常駐体制をとっており、充実させていければと思っております。今後もさらなる連携強化とともに当院も医療の質の向上を図り、地域医療に貢献できるよう努力してまいります。



## 平成28年度 病院長賞

平成28年度は医療技術の向上や患者サービスに貢献した左記の職員を表彰いたしました。



7階西病棟看護師 倉持 綾子



脳神経外科病院講師 下川 尚子

3階北病棟北 看護職一同



▲3階北病棟北スタッフステーション